

図書館情報学研究と フォーカスグループインタビュー

—「読書」をテーマとしたケーススタディから

汐崎 順子 2007.09.29
【shio-je@slis.keio.ac.jp】

1

定義 : フォーカス・グループ・インタビュー(FGI)とは

- ✦ 具体的な状況に即したある特定のトピックについて選ばれた、複数の個人によって行われる形式ばらない議論。リラックスした雰囲気の中で、非常に幅の広い、より包括的な参考となるデータが得られる手法 (Beck et al. 1986) * 1
- ✦ あらかじめ選定された研究関心のテーマについて焦点が定まった議論をしてもらう目的のために、明確に定義された母集団から少人数の対象者を集めて行うディスカッション (Knodel et al. 1990) * 2
- ✦ グループダイナミクスを活用しながら質的に情報を把握する科学的な方法論の1つ(安梅 2001) * 3

2

FGIの特徴

- ✦ “フォーカス”
具体的な状況に即したある特定のテーマに限定
 - ✦ “グループ”
意識的に集められた「同一テーマに興味を持つグループ」(通常6~12名)
 - ✦ “インタビュー”
形式ばらない・リラックスした雰囲気の中での自由な集団討議。
+ 話題を引き出し方向付ける司会者の存在。
- ★FGIの利点 (v.s.個人インタビュー) (Hess. 1968) *4
「研究者にとってFGIは個人インタビューを凌ぐほどの明らかな実用性がある」
①相乗効果性 ②雪だるま性 ③刺激性 ④安心感 ⑤自発性
(詳細は後述)

3

FGIの目的と利用

- ✦ 目的: 人間の行動の質的な理解
特定の話題について率直で日常的な会話を創り出し、人々がなぜ・どのように感じ・考え・行動するのかを発見する(合意形成ではなく、人々の意見の広がりの理解と発見)
定量的な調査では得られない要素を発見する
- ✦ 利用: 研究手法としての有用性
FGIは探索的研究に適する
 - ✦ 調査研究の最初の段階での利用
 - ✦ 発見された結果を解釈するための利用
→量的調査とFGIとの組み合わせ (Vaughn et al. 1996) *5

4

FGIと研究分野

- ✦ マーケティング・ビジネス
消費者のニーズを知る。市場調査に有効
- ✦ コミュニケーション研究
視聴者の反応、マスメディアの効果を知る
- ✦ 人口学
研究手法の主流であった量的調査との組み合わせ
- ✦ 医療
患者のニーズや認識、健康医療情報の入手

参考: (安梅 2001) *3, (Vaughn et al. 1996) *5, (千年他 2000) *6

5

FGIと図書館情報学

- ✦ FGI採用の意義と有効性
適した研究テーマは？
- ✦ 科学的根拠
科学的な分析結果の検討<「証拠」の検討は？
妥当性・信頼性・客観性・代表性・偏りは？
- ✦ 採用手法
組み合わせるか？単独か？
質的調査と量的調査の組み合わせ？
質から量へ・・・定性データから定量データへの変換？

6

「子ども時代の読書」の研究とFGI

研究の目的

「子ども時代」に読書が好きだと認識した
 時期(いつから)・きっかけ(どうして)
 および読書に対する学校図書館と公立図書館の存在と影響
 を明らかにする。(「子ども時代」は幼児～小学生までとした)

調査の視点と方法

- ⊕ 体験としての「読書」の調査
- ⊕ 量的・質的両面からの調査
 →質問紙調査(量的調査)とFGI(質的調査)の組合せ

7

「子ども時代の読書」の研究06～07

Part I・2006

- ⊕ FGI1・2の実施(2グループ) 2006.6月・7月
- ⊕ 質問紙調査の実施 2006.7月
- ⊕ 分析・発表(2006/三田図書館・情報学会)

Part II・2007

- ⊕ 質問紙調査の実施 2006.秋
- ⊕ FGI3・4の実施(2グループ) 2007.7月

8

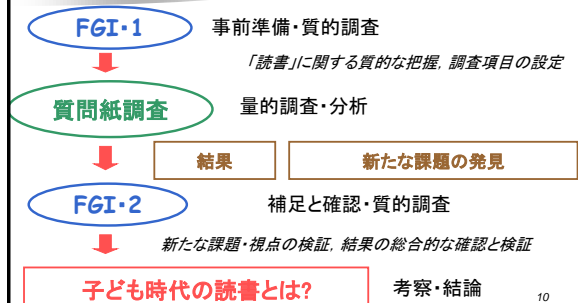
Part I : 調査対象と実施状況

大人を対象とした「読書経験の振り返り」

- ⊕ 質問紙調査:
 2006年7月・6大学の学部生(1～4年)対象に実施
 有効数504人(回収数:517)
- ⊕ FGI1・2:
 子ども時代に「本が好き」「学校図書館・公立図書館の
 利用者」だった大学卒約2年程度の男女各5人(合計10人)、2グループ
 第1回:女性グループ/2006年6月末
 第2回:男性グループ/2006年7月末

9

Part I : 研究の流れとFGI



10

Part I : 研究の流れとFGI

FGI1の位置付け

FGI1

- ⊕ 「読書」に関する質的な把握
- ⊕ 調査項目(質問紙調査)の設定
 →調査研究の最初の段階での利用
 調べたい情報・あるいは関連した予備知識を集め、構成概念を十分に理解し、仮説を立てる
 調査対象者の日常経験の文脈からそれることなく、仮説のための予備知識、調査事項、調査デザインを検証する。
 ……研究を次の段階へ進めるための第一歩としての利用

11

Part I : 研究の流れとFGI

FGI2(+1)の位置付け

FGI2 (+FGI1)

- ⊕ 新たな課題・視点の検証
- ⊕ 結果の総合的な確認と検証
 →発見された結果を解釈し、分析するための利用
 - ⊕ 捕捉と確認
 - ⊕ 発見された事項の洗練、説明の追加

12

FGIの計画・実施・分析

1. 実施計画の設計

インタビューガイドの作成・・・目的・対象・内容の確認
参加者の選定と依頼

2. 準備

必要な場所・機材・スタッフの確保 各役割の確認
被験者への各種手続・事前連絡

3. 実施

参加者・司会者・記録者(観察者)の配置
司会者の役割→導入から締めくくりまでインタビューの進行

4. 分析

逐語記録(観察記録)の作成
重要要素の抽出→カテゴリーズ→検証と分析
*最終的には複合分析→Part I では、{FGI1+2+質問紙調査}

13

FGIの計画・実施・分析

目的・参加者の選定

目的:

子ども時代の読書について

- ✦ 読書を好きになった「きっかけ」の詳細(具体例)を知る
- ✦ 読書意欲の「強化」の詳細(具体例)を知る
- ✦ 読書興味と読書内容の詳細(具体例)を知る
- ✦ 環境的な要因を探る(家庭・学校・図書館)

対象:

- ✦ 子ども時代に「本が好き」だった者
- ✦ 「学校図書館や公立図書館の利用者」だった者

14

FGIの計画・実施・分析

当日のシナリオ

1. インタビューの内容・目的・流れの説明(5分)

2. 自己紹介(30分:1人5分程度)

3. 子ども時代の読書のきっかけについての討議(30分)

- ✦ 本を好きだと思ようになったのはいつか?
- ✦ 本を読むのが楽しいもともと読みたいと思ようになったきっかけは?
- ✦ どんな本が好きだったのか・どのような読書をしていたのか? 等

4. 子ども時代に影響を与えた様々な要素の詳細(30分)

- ✦ 自身の子ども時代の読書に影響を与えたものは何か?
- ✦ 人(親や友人)・環境(家庭や学校・図書館)など 等

5. まとめと捕捉(15分)

15

FGIの計画・実施・分析

FGIがもたらす効果(Hess)

Hessの指摘した「FGIの利点」から

- ①相乗効果性 相互作用による、広範なまとまったデータの出現
- ②雪だるま性 一つの発言から、連鎖的な反応で会話が発展
- ③刺激性 「グループでの討議」が生み出す話題についての刺激
- ④安心感 「グループ」がもたらす安らぎ感による、率直な反応の促進
- ⑤自発性 強制でない進行による、自発的・純粋な反応

16

FGIの計画・実施・分析

FGIがもたらす効果: 会話例

- (A): あと『ズッコケ』ね。小学校前半の時はそれで・・・(略)
(B): それ、Aはきっかけってなあに? ←自発
(A): やあ、えっとね『ズッコケ』は学級文庫だった
(C): あああ、みんな読んでるよね。←安心
(司): あ、学級文庫っていう話が出ましたけど
(A): ほくほくバリバリ。あのコンプレックスかもしれないけど、←雪だるま
自分があんまり運動できない子だったんですよ、それで
(D): ああそれ、それあるなあ、一緒一緒、それ全く一緒! ←刺激・雪だるま
その分本ばかり読んでたみたい
(A): どういえばいいのか・・・このへんの感情をね
(D): いや、「見返す方法が知識以外にねえな」って思ったんだよね ←相乗効果
(A): 見返すっていうかね、何かね「本をたくさん読める」ことが
かっこよかったんだよね、多分 ←雪だるま・相乗効果
(D): ああ運動できるのと、かっこよさを別にしたのね *FG2 男性グループ
↑相乗効果

17

FGIの計画・実施・分析

会話の抽出とカテゴリ化

例: 「読書のきっかけと環境」について

- ✦ きっかけ・・・時期/何が
- ✦ 家庭環境・・・両親/兄弟
- ✦ 好きだった本など
- ✦ 本の読み方 パターン/入り方
- ✦ 読書環境 家/学校/図書館

18

会話例:きっかけ・・・時期/何が?

- (a):好きって思ってもっと読みたいと思ったのは中学の時。-(中略)-司書の先生が・・・
- (b):結構小さい頃の体験が・・・-(中略)-毎晩父が帰ってきてから寝る前に読み聞かせをしてくれて。
- (c):6歳か7歳くらいで・・・母が読んでくれたのはすごく記憶があるんですけど。
- (d):母の影響で・・・本当に赤ちゃんの時から、毎晩こゝろ絵本とかお話をとか読んで聞かせてもらってたというのが好きになるきっかけで。
- (e):私もやはり小さい頃の母の読み聞かせがとても大きな影響を及ぼしているかなと思います。

*FGI女性グループ

19

FGI1と質問紙調査項目の設定

例:「読書を好きになる」
新しい要素→ネガティブな要素
の発見と
質問紙調査への反映

20

会話と項目設定の例

ネガティブな要素の発見

- (d):聞きたいことが一つあるんですけど・・・私が絵本とかお話をすごく好きになったのは場分私運動神経がすごく悪くて、外で遊ぶのが全然好きじゃなくて
- (b):スポーツタイプと読書タイプって感じ?
- (c):私、それあると思う。運動嫌いだったし。-(中略)-友達とかと付き合ってるのも嫌いだったので

質問紙項目への反映

設問:『本を読むのがどうして好きだったと思いますか?』の中に

- ⊕ 一人でいることが好きだったから
- ⊕ 体を動かすことや運動が苦手だったから

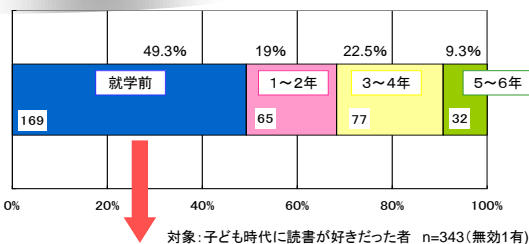
21

FGI1・2と質問紙調査:総合的な検証

例:読書(本)が好きになった
『時期』と『好み』
について質問紙調査で見られた
結果(男女差)の要因を
FGIの会話から考える

22

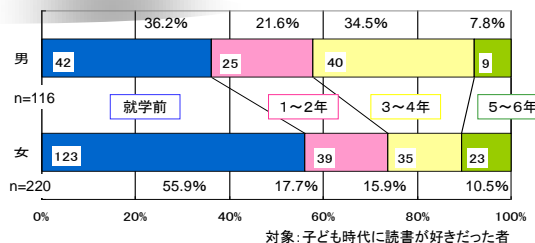
質問紙調査:好きになった時期①(全体)



- ⊕ 約半数:49.3%(169人)が「就学前」と回答

23

質問紙調査:好きになった時期②(男女別)



男性:「小学生時代」が過半数 63.8%(74人)
女性:「就学前」が過半数 55.9%(123人)
⇒「読書が好き」という認識の男女差があるのか?

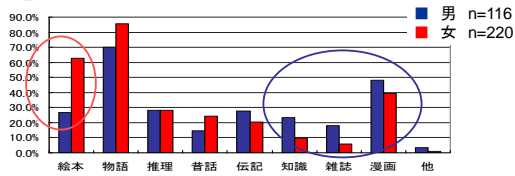
24

質問紙調査:読書の好み

男女ともに物語はトップだが・・・

女>男 絵本に対する嗜好の違い⇒時期との関係は？

男>女 知識の取得、雑誌への好み



対象:子ども時代に読書が好きだった者/該当するもの3つまでを選択 25

FGI:好きになった時期と好み

各会話で見られた例

女性

- ・ 就学前からの読書体験
- ・ 絵本や物語の記憶
- ・ 読み聞かせの体験

母の影響で、赤ちゃ
んの時から毎晩絵本
とかお話とか読んで
聞かせてもらって
て・・・(d)

男性

- ・ 小学校以降の読書体験
- ・ 物語や知識の本の記憶
- ・ 自発的な読書の体験

小学校の頃・・・
一番最初「本を読ん
だ」っていうことで覚
えてて・・・『ああ無
情』が好きでした(A)

FGI:幼児期の読書体験

男性にも見られた

- ◆ 幼児期の体験
- ◆ 絵本の記憶

1 多分幼稚園だと思っ
ですけど・・・絵本は記
憶がありますよ。ぐりと
ぐらの作ったオムレツ
が美味そうとか・・・(B)

2 あれ、パンケーキ
じゃないの？(C)

3 !!でかい卵を車にし
ちゃうみたいなの(D)

「読書が好き」になる状態の認識の男女差
読んでもらう読書(女性)⇔自分で読む読書(男性) 27

「子ども時代の読書」の研究06~07

Part I・2006

- ◆ FGI1・2の実施(2グループ) 2006.6月・7月
- ◆ 質問紙調査の実施 2006.7月
- ◆ 分析・発表(2006/三田図書館・情報学会)

Part II・2007

- ◆ 質問紙調査の実施 2006.秋
- ◆ FGI3・4の実施(2グループ) 2007.7月

Part IIの企画と実施の目的

質問紙調査

- ◆ 標本数の拡大による代表制の確認・検証(+384件)
- ◆ 標本の偏りの影響の確認・検証
・・・Part Iは司書・司書教諭課程の授業におけるアンケートが主
- ◆ 新たな視点での分析への期待 ・・・未分析の要素あり

FGI調査

- ◆ より一般的なグループの会話の検証
・・・Part1の参加者の個性と読書傾向の強さ
- ◆ グループ化の影響の検証 ・・・Part1は男女別々
- ◆ 異なった属性のグループへの調査結果の比較による
「読書好き」に特有な要件の発見への期待

Part II

FGI3・4の対象と実施状況

◆ 実施時期

2007年7月下旬(2回)

◆ 対象者

大学1年~4年生 13人

(FGI3:女4/男2 FGI4:女5/男2)

『読書と豊かな人間性』受講生(参加希望の募集)

→子ども時代に「本が好き」・「学校図書館・公立図書館の利用者」
の限定はしないが、読書に対して一定以上の興味は持っている
と推測できる学生

Part II FGI風景①



*注
写真は2007のFGI4の様子を撮影したもの

31

Part II FGI風景②



*注
写真は2007のFGI4の様子を撮影したもの

32

*** FGI3・4を実施して -雑感**

- ◆ サンプルング: 参加者の選定と構成は?
やはり「かなりの読書好き」が集まり、男性が少なかった
- ◆ 研究のゴールは?
「共通する要素」の発見か? ⇔ 「様々なパターン」の発見か?
- ◆ FGI選択の効果は?
内的な経験・記憶の情報を求める調査研究
「触発される」「思い出す」というプロセスに効果のあるFGI
- ◆ データの評価と位置付けは?
カジュアルで雑多な内容・・・活き活きとした面白さ・発見は多いが、
どう評価し、位置づけるのか? →エビデンスはどこに?

33

*** FGIの司会者の役割**

- ◆ 適切な導入 目的と方法の明確化
- ◆ 場の雰囲気作りによる活発な発言の促進
- ◆ スムーズな進行への道案内
具体的で分かりやすい質問の提示
自発的な発言の後押し
次の発展につながる要約
ばらつきのない公平な発言機会への配慮

→主観的に喋ってはいけないが(発言者ではない)
客観的に喋らなくてはならない(モデレータである)

34

FGIの効果と課題

FGIは、質的調査と組み合わせることでより効果的な研究手段となりうる。
科学的根拠となる妥当性(証拠性)と信頼性(確実性)を得るためには
以下の要件を十分に考慮する必要がある。

デザイン・・・事前の綿密な設計の必要性

- ◆ 全体の研究の中での位置付け
- ◆ ガイドラインの設計

サンプルング・・・適切な標本の選択と確保

- ◆ グループの選定・構成 参加者募集の計画

調査・分析・・・十分な情報収集と適切な分析の採用

- ◆ 司会者(モデレータ)の技量の重要性
- ◆ 適切な分析方法の採用が必要
重要な要素の抽出・カテゴリ化・複合的な分析 (*分析ソフトの採用含)
- ◆ 非言語的情報の採用と分析の検討

35

注・参考文献

1. Beck, L.C., Trombetta, W.L., Share, S. Using focus group sessions before decisions are made. North Carolina Medical Journal, Vol.47, No.2, 1986, p.73-74.
2. Knodel, John; Sittitrai, Werasing, Brown, Tim. Focus Group Discussions for Social Science Research: A Practical Guide with an Emphasis on the Topic of Aging. Population Studies Center Research Report. No.90-3, 1990.
3. 安梅勲江著. ヒューマン・サービスにおけるグループインタビュー法: 科学的根拠に基づく質的研究法の展開. 東京, 医歯薬出版, 2001, 128p.
4. Hess, J.M. Group interviewing. New Science of planning, R.L.King ed. Chicago. American Marketing Association, 1968, p.51-84.
5. ヴォーン, S.(他)著. グループ・インタビューの技法. 東京, 慶應義塾大学出版会, 1999, 215p.
6. 千年よしみ, 阿部彰. フォーカス・グループ・ディスカッションの手法と課題. ケーススタディを通じて. 人口問題研究 (journal of Population Problems), Vol.56, No3, 2000, p.56-69

36

『子ども時代の読書』とフォーカスグループインタビュー

